

LRT(次世代型路面電車)の整備について

宇都宮市 建設部 LRT 企画課 協働広報室

1. 宇都宮市のあらし

宇都宮市は、東京から北に約 100km、栃木県のほぼ中央に位置し、北西に日光連山、北に那須連山を望み、東に鬼怒川の清流、南には広大な関東平野が開け、美しい豊かな自然に恵まれています。

市域の南北を東北新幹線及び東北自動車道が、東西を北関東自動車道が通り、JR 宇都宮線、JR 日光線、東武鉄道などが通過する交通の要衝で、商・工・農などの各産業が高いレベルでバランスの取れた北関東の中核拠点として着実に発展してきました。

明治 29 年に市制を施行し、平成 19 年 3 月の旧河内町・上河内町との合併を経て、北関東初の 50 万人都市となり、令和 4 年 4 月 1 日現在、約 51.5 万人の人口を有しています。

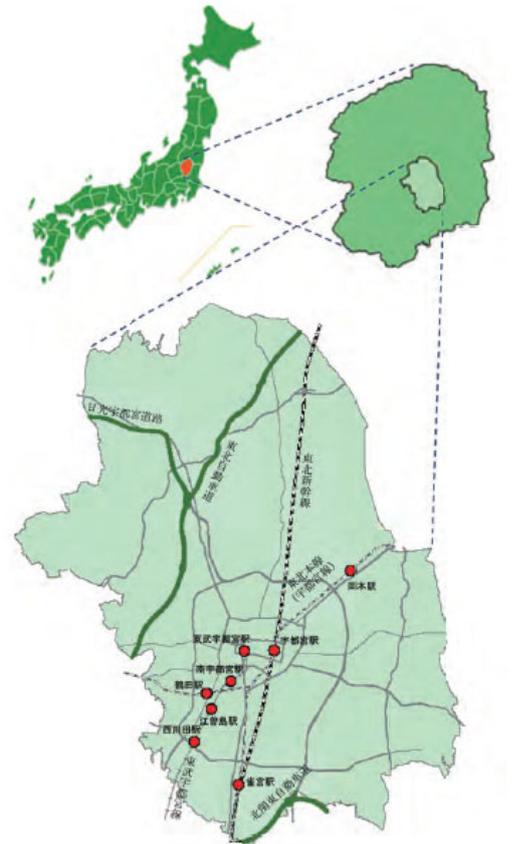


図 1：宇都宮市の位置

2. 宇都宮市のまちづくり

(1) スーパースマートシティ

『スーパースマートシティ』とは、持続可能な都市構造である「ネットワーク型コンパクトシティ（後述）」を基盤としながら、「地域共生社会」（社会）、「地域経済循環社会」（経済）、「脱炭素社会」（環境）の 3 つの構成要素が融合し、「人」と「デジタル」を原動力に発展を続けられるまちのことです。

本市では、社会環境が急速に変化する中であっても、市内外から選ばれる高い都市力を備え、将来にわたって成長力を確保できるまちづくりに取り組んでいく必要があると考えています。そのため、基本構想に掲げる「将来のうつのみや像（都市像）」を実現し、SDGs の達成にも貢献していくため、概ね 2030 年頃を見据えた具体的なまちの姿として、「子どもから高齢者まで、誰もが豊かで便利に安心して暮らすことができ、夢や希望がかなうまち『スーパースマートシティ』」の実現を目指すことを掲げています。



図2：スーパースマートシティのイメージ

(2) ネットワーク型コンパクトシティ (NCC)

本市では、『スーパースマートシティ』の実現に向け、その基盤となるNCCの形成を進めています。NCCとは、中心市街地や駅周辺、産業や観光に魅力がある地域などを拠点として集約（コンパクト化）し、それらを利便性の高い公共交通などで連携（ネットワーク化）した都市のことです。

持続的に発展するNCCの形成を着実に推進するため、鉄道やLRT、バス、地域内交通が連携した、誰もが移動しやすい環境の整備と一体となり、本市の魅力と活力を高め、市全体の成長をけん引する中心市街地の活性化や、日常生活に必要な機能の誘導などによる暮らしやすく魅力ある地域拠点の形成を進めています。

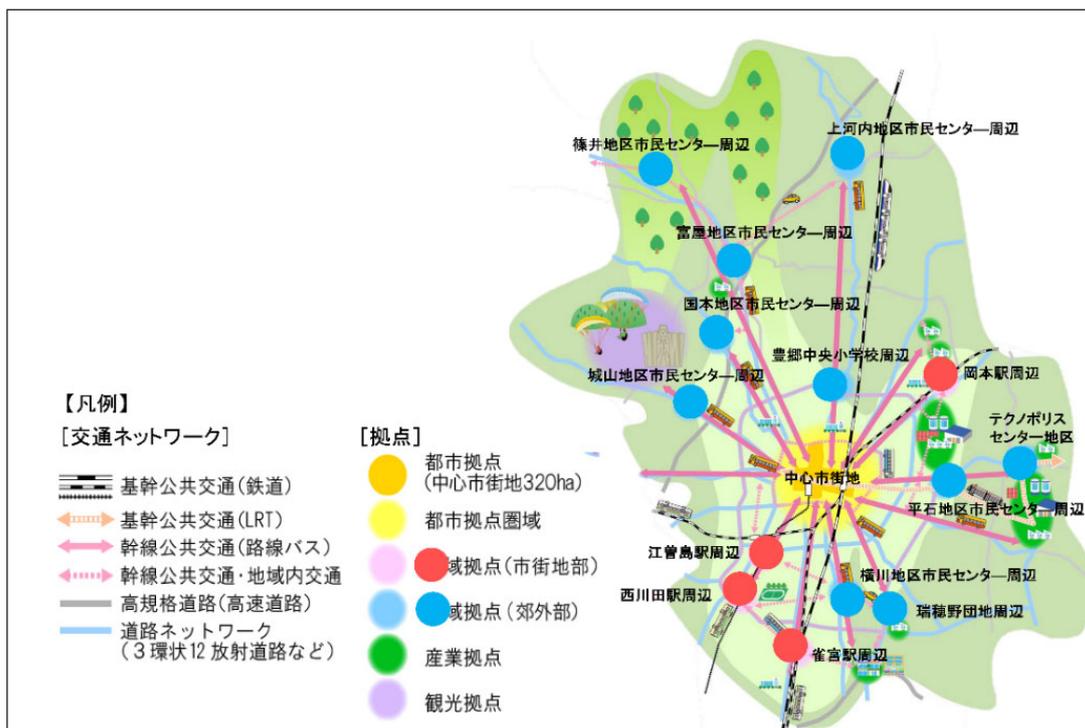


図3：ネットワーク型コンパクトシティのイメージ

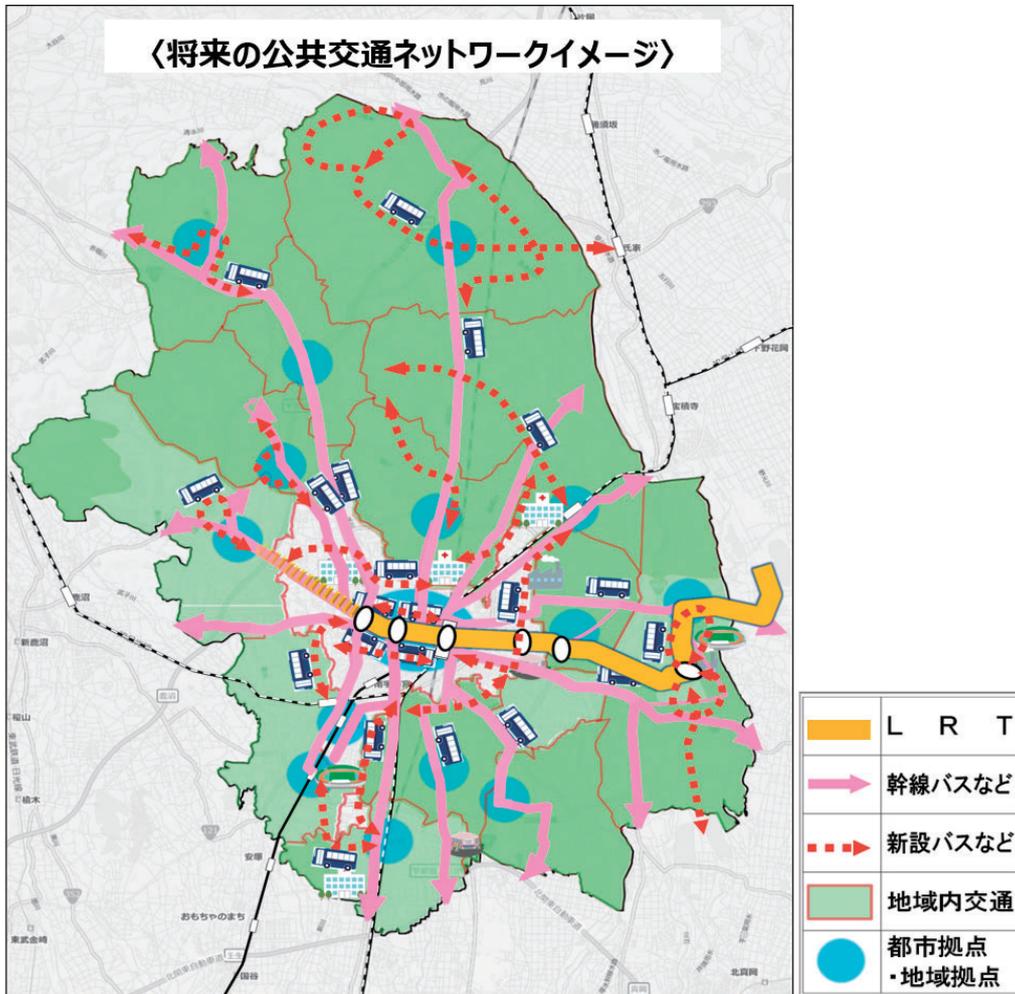


図4：宇都宮市の拠点と公共交通ネットワーク

3. LRTの導入について

本市が目指すNCCを形成するためには、南北方向の鉄道とあわせ、高い輸送力や定時制を備えたLRT（Light Rail Transit：次世代型路面電車）を東西方向の基軸として、各拠点間を結ぶ幹線・支線からなるバス路線や、それぞれの地域において日常生活の移動を面的にカバーする地域内交通を整備し、利便性の高い公共交通ネットワークを構築することが不可欠であると考えています。

基幹公共交通であるLRTは、高い輸送力とともに、定時性や速達性など、基幹公共交通にふさわしい機能のほか、鉄道やバスなど他の交通との円滑な連携や、停留場と車両に段差がなくバリアフリーな設計により誰もが乗り降りしやすい工夫が図られています。また、従来の路面電車と比べ高いデザイン性を備え、騒音や振動が少なく乗り心地も快適であるとともに、二酸化炭素排出量が



写真1：LRT車両

軽減されるなど、次世代を見据えた人と環境に優しい乗り物です。

主な整備効果としては、住民の日常生活における移動の利便向上や公共交通空白・不便地域解消への貢献、環境負荷の軽減、沿線の利便性向上による企業の生産活動の向上、地域における雇用の増加などが想定され、ひいては、自治体として税収増が期待でき、将来的に行政サービスの維持・向上にもつながるものととらえています。



写真 2：車両内部

4. LRT の整備状況



図 5：LRT のルート図

LRT 事業については、平成 25 年 3 月に「東西基幹公共交通の実現に向けた基本方針」を策定し、その中で、LRT を東西基幹公共交通として導入することや、JR 宇都宮駅の西側に位置する桜通り十文字付近から宇都宮テクノポリスセンター地区までの約 15km を計画区間として位置づけること、また、東部地域における慢性的な渋滞の緩和や公共交通空白・不便地域解消等の効果発現が早期に期待できることなどから JR 宇都宮駅東側の区間（約 12km）から優先的に整備に取り組むことを示しました。さらには、同年 10 月に隣接する芳賀町からの要望書を受け、JR 宇都宮駅東口から芳賀・高根沢工業団地付近までの約 14.6km の優先的な整備に取り組むこととしました。その後、平成 30 年 5 月に着工しました。

現在の整備状況は、優先整備区間である駅東側において、鬼怒川橋りょう工事のほか、清原工業団地においてはレー



写真 3：LRT 走行及び利用イメージ
(PR 用ポスターより一部抜粋)

ルの敷設や停留場整備（運行表示板や案内表示等を除く）が完了しており、現在は JR 宇都宮駅前から延びる鬼怒通りなどにおいて、軌道工事を進めているとともに、LRT 車両が順次車両基地に納入されるなど、整備が進んでいます。今後とも理解促進と機運醸成を図りながら、開業に向けて取り組んでいきます。



写真 4：鬼怒川橋りょう



写真 5：清原地区市民センター前停留場



写真 6：検修庫



写真 7：鬼怒通りの工事状況

5. おわりに

本市では、人口減少、超高齢化社会においても、子どもから高齢者まで誰もが豊かで便利に安心して暮らすことができ、夢や希望がかなうまち「スーパースマートシティ」の実現に向け、今後も都市の基盤となるネットワーク型コンパクトシティの形成と公共交通ネットワークの基盤となる LRT の早期実現に向けた取組を進めていきます。栃木県に来られる機会があれば、宇都宮市にお立ち寄りいただけたらと思います。